高松支援学校　肢体不自由教育スタートアップ講座

安全な
身体援助のポイント

① 本校の子どもたちの身体の特徴

② 日常の援助のポイント

香川県立高松支援学校
自立活動室

本校の子どもたちの身体的特徴

①関節拘縮があり体が硬い

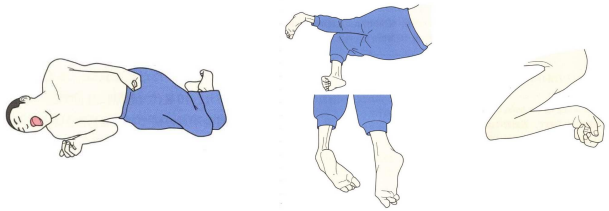
②骨の弱さ

③筋緊張の異常・
不随意運動がある

④姿勢保持の難しさ

→ ケガのリスクが高い

①関節拘縮とは？



関節の動く範囲が制限された状態

年齢とともに可動域が狭くなる場合が多い

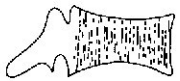
図は医歯薬出版「最新理学療法学講座　小児理学療法学」P84、90より引用

②骨の弱さ

健康な骨

中身がぎっしり詰まっている

不健康な骨



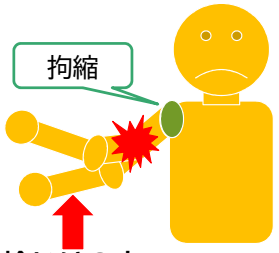
中身がスカスカ…

荷重の少なさ

薬の影響　低栄養

図は医歯薬出版「運動器疾患とリハビリテーション」P85より引用　一部改変

どんな時に骨折が起こる？



弱い力でも骨折を起こす危険性

関節を支えて援助する

手先をもたない

体に近い関節を支える

③筋緊張の異常・不随意運動

筋緊張の異常

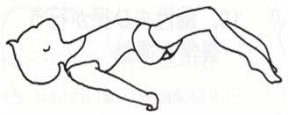
常に力が入っている
急に手足が突っ張る　＞　**過緊張**

ぐにゃぐにゃ　――　**低緊張**

不随意運動

バタバタ動いてしまう

動きをコントロールできない



図は医歯薬出版「脳性麻痺時の家庭療育」P64,76より引用

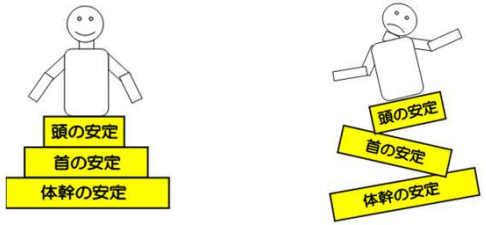
④姿勢保持の難しさ

転倒するかも…

周りの物に体をぶつけるかも…

常に注意を向けておく！

④姿勢保持の難しさ



「見る」「聞く」「話す」「食べる」「読む」「書く」
いろいろな活動・学習への影響

本校の子どもたちの身体的特徴

①関節拘縮があり体が硬い → 介助中の事故など

②骨の弱さ

③筋緊張の異常・
不随意運動がある → 転倒・打撲など

④姿勢保持の難しさ

骨折・ケガの
リスクが高い

骨折・ケガを避けるために！

- 関節の動く範囲を確認
- 手足の先をもって動かさない
  関節を支えながら動かす
- 軽い力でゆっくりと動かす
- 決して目を離さない

常にケガへの危機意識をもっておくこと

日常の援助のポイント

触れるときのコツ

強く握る　指先を立てる　　手のひら全体で

日常に多く行う援助

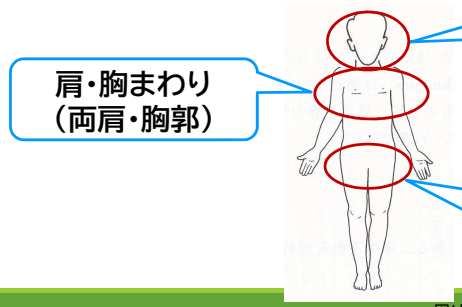
車椅子の乗せ降ろし

着替えの援助

トイレの援助
（おむつ替え）

乗せ降ろし介助のポイント

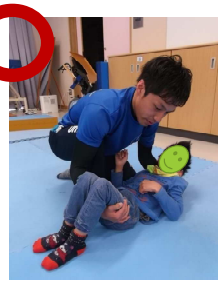
重量がある部分をしっかりと支えましょう



図は医歯薬出版「基礎運動学」P20より引用　一部改変

乗せ降ろし介助のポイント

先生方の体も守るために



腰を落として

体に密着させて

乗せ降ろし介助のポイント

ポイント

・重量のある部位をしっかり支える
・体を密着させる
・援助する前に言葉かけ
・子どもの手足は体の中心に
・二人で息を合わせて（二人介助の場合）

着替えの援助

ポイント

- 上肢（肩・肘）下肢（股・膝）の可動域の確認
- 脱健着患
- 指先・爪の引っかかりに注意
- できるだけ伸縮性のある素材の服を選ぶ

着替えの援助

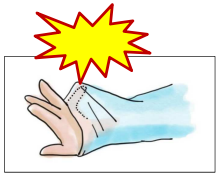
脱がせるときは（ **動かしやすい部位** ）から

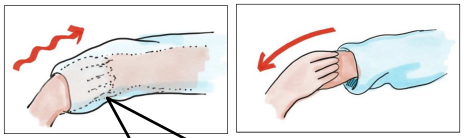
着せるときは（ **動かしにくい部位** ）から

脱健着患

着替えの援助

指先や爪が引っかからないように注意しましょう！





服の中で
指先を包み込み
保護しましょう

トイレ(おむつ替え)の援助

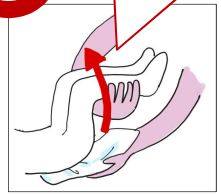
ポイント

- 股関節･膝関節の可動域の確認
- ふくらはぎを手でしっかり支える
- 足先だけをもって動かさない
- 足が外側に倒れないように
- ズボンやおむつなどあらかじめ準備

トイレ(おむつ替え)の援助

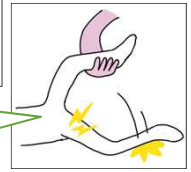
○

ふくらはぎを支えて
持ち上げる



×

足先の方を
持たない



足が外側に
倒れないように

まとめ

援助する時には‥

- ●関節の可動域の確認
- ●手足の先を持って援助しない
- ●援助をする前に声をかける
- ●1人で無理をしない

危機意識を持ち続けることが大切

まとめ

心地の良い援助を心がける！

人間関係(信頼関係)をつくる基礎

本校の子どもたちにとって
学習活動の一つである